婦人と新社會

山田わか主筆

二月號

社會制裁機關としてのファスシスト

社會理想の創造

婦人の社會教育——母性——職業

獨逸に於ける新道德樹立運動

獨逸勞働者を支配する思想

海外視察談の一

主婦と經濟知識

男子の品行と美術館

男子の不品行と花柳界

世界再生と印度の婦人

保守主義と進歩主義の歴史的內容

教育社會學
——社會階級の研究——

每月一回一日發行　第三十六號　大正十二年二月一日發行

大正九年二月二十三日第三種郵便物認可
大正十二年一月二十三日印刷納本

東京[illegible]

山田わか著

再版

戀愛の社會的意義

○四六特三百五十頁　定價金貳圓○
○總クロース美本　送料金拾五錢○

目次大要

富を造る事と幸福を造る事――戀愛と結婚――戀愛に對する男子の態度――菊榮氏の『女も進んで求婚すべし』に附て――結婚道德の一ツ――墮胎に附て――戀愛の自由と本能――女子敎育の基調――産業機關は臺所のため――戀愛と藝術――家庭を追はれた産業婦人――婦人運動の歸着點――メレデスの靈肉觀――母と社會政革――婦人の智的生活――禽獸の親子關係（其他十七問題）

東京市四谷區南伊賀町四十一番地
發賣所　婦人と新社會社
振替東京五三六八八

婦人と新社會

二月號

社會制裁機關としてのファシスト

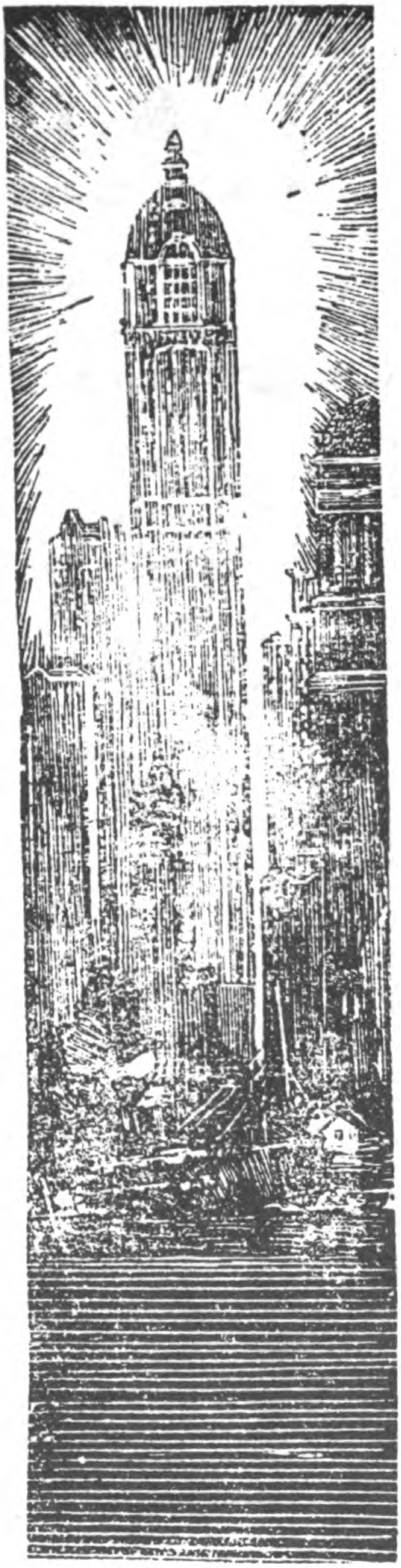
伊太利のアレザンドリアに於けるファシスト黨は前科者の記錄を警察から借り受けて其等の前科者の凡てを或る場所に呼びあつめました。何事であるかと怪訝な顏してあつまつて來た大勢の前科者に對してファシスト黨の其の地方の統領は云ひ度しました。

「此のアレザンドリアに於て今後は斷じて犯罪者を出してはならない。我々は最早其の煩はしさに耐へきれなくなつてゐるのだ。今後、もし、犯罪行爲を認めたならば誰でもかまはず其の場で撲殺してしまう。であるから、皆の者は決心するがよい。墓に行くか― 正業に付くか―」

すると、前科者の凡ては非常に感動して其の場で正業に付くことを誓ひ、幾人かは直ぐ職業を紹介され、或る幾人かは職業に付く約束をし、同時に、差し當り衣食に窮して居るものは其の手當てを受けたさ云ふことです。

我が國に於ても、所謂犯罪行爲は日に〳〵増加しつゝあります。それにはいろ〳〵の原因があるとしても、とにかく、淫蕩な文學、下劣な活動寫眞、無責任な煽動的な言論や批評の影響を受けて無責任者が益々無責任になつた結果だと云ふことは誰にも否めない事實でありませう。

官憲の無能が度々叫ばれてゐますが、今日の此の狀態は官憲の力ばかりでは到底制裁しきれなくなつてゐるのかも知れません。社會制裁機關が生れ出て官憲と共力する必要がありませう。



社會理想の創造と婦人

婦人の社會敎育——母性——職業婦人

一

敎育は人格を發達させる一過程です。で、社會敎育は其の過程を社會秩序の爲に有益な作用を爲すような方向に向けやうとするものです。人格は社會秩序の一部分です。故に、女子の社會敎育は、其の目的としては、個人としての生活の發達と其の生活を

社會の必要に調和させるように修養せしむるのです。

個人に對する社會の要求に男女の別がないならば、女子教育と云ふことに就て、特に、問題が起る筈がありません。そして、昔から男女兩方に同じように教育の機會を與へて來たに相違ありません。けれども、女子は男子と同じような機會を與へられて居ませんでした。そして、此の頃は男女の教育上の機會平等、權利の平等、及び活動範圍の平等と云ふ要求が盛んになりました。けれども、此處に、社會と云ふものを研究する專門家の注意に價する問題が其れ以外に存在してゐます。

一體、教育は今も云つた通り人格發達の一過程であると同時に個人をして團體生活に、つまり、國家的生活に有益ならしむる方法ですが、此の教育は今日に於て、始めて社會化せられたものではありません。昔から教育の社會作用と云ふことを基礎に新しい理論が續々と出て來て、各人の社會關係の諸相に於て、又は、歷史的變化の各期限に於て、望ましい、且つ、必要と考へられた理想や習慣や又は社會制度は、次代を

敎育することによつて實現し、そして永久的に爲さうと努力して來ました。

敎師が生徒の人格を造る上に於て直接の責任者であると云ふことは勿論でありますが、併し、社會が其の社會の習慣と必要に從つて敎育の目的と方法とを決定してゐました。又　家庭が第一の學校でなければならぬと云ふことも勿論ですが、これも、亦、各家庭が子供に希望する子供の性質と云ふものは、社會と云ふものが組織されて以來、其の社會が正しい有益なものと定めた標準に從つて子供を敎育して來ました。それ故、男子と女子に別な敎育を授けて來たのは、男子と女子とは社會に對する義務が別であつたからです。今日の男女の活動範圍が異なつてゐるのは久しい間の經驗の結果を受けついで居るのです。

或る人は、男兒の敎育は人間的及び、社會的な仕事に適するように　女兒の敎育は日々の生活に必要な手仕事に適するようにしてあつたと云ひましたが　必ずしもさうとは云へない、女兒も男兒も同じように人格を造る爲め、そして社會的に有益な人間

になるように敎育されてゐました。

昔、男子は土地を利用すること政治的秩序を知ること、家庭に對する責任を重んずること、自分の屬する團體に對して忠實であらねばならぬことを敎へられましたが、其の點は女子も亦同じように敎へられてゐました。唯、違ふ點は、男子は其の身分が何であらうと或る特種の職業を學ばなければならなかつた。そして、其の職業には知力の集中と技術の熟練とが必要でした。併し、女子は家庭內の一般的の性質を帶びた職務を學ばねばなりませんでした。

そして、分業と云ふことが始まつて以來、家庭內の其の一般的の仕事は一ツづゝ減じて行きました。其の結果は、家庭婦人の仕事は、他人の專門的智識と技術が造つたものを賢く利用することになりました。分業は益々盛んにならうとしてゐるので、家庭婦人は益々他人の專門的知識と技術の結果を利用する能力を養成することが必要となつてゐます。

さう云ふ生活の形式は益々はつきりして來て、其の影響は益々深く益々遠く及ぼそうとしてゐます。で、女兒は家庭に於て其の方面の知識を得、男兒は益々一定の仕事に就ての知識と技術を得て行かなければならなくなつてゐます。

二

國家が成立した時に、男子に對しては兵役の義務や、其の他の國家に對する義務が愛國の精神となつて統一された時に、女子は國民としては、最早、數へられないようになりました。そして、婦人が家庭に於て、自分の役目としてゐた生産的の仕事が、一ツづゝ〳〵家庭の外に行つて、製造業とか、商業とか、運搬業とか云ふように別々な職業となり組織された時、そして、國と國との間で生産物を交換するやうに迄なつた時、婦人は、男子の組織的天才が組織した其の産業組織を制裁する力を失つてゐました。そして、其の産業組織に無關係である女子の敎育と云ふことは全く等閑にされてしまいました。

普通人に或程度迄の教養を授けると云ふことが歐米の學校組織の基礎となつてゐますが、併し、ツイ此の頃迄、其の普通人の中に女子は入つて居ないのでした。女子が知らねばならぬ知識は女子が自然に覺へるものと信じられてゐました。それで、女子の知識と云へば、特別な天才婦人の男性模倣かさもなければ無意識のうちに學んだものであリました。

一般女子の無學は女子自身にとつては進步の障碍物であり、社會力の貧弱を意味するものでありますが、と云つて、それであるから婦人は人類の仲間でないとか、文明を味はふ資格がないとか云ふのは間違つて居ます。男子と女子とは愛情によつて合體するし、女兒は父親の感化を受けます。男性中心思想の支配の下にあると云つても、家庭は凡ての社會制度を取り入れて居るし、時代思想と云ふものゝ男女の區別が出來ない程取り入れられてゐます。婦人が自分の名を書くことすら出來ない時代でも、猶婦人は社會が婦人に要求するものから、且つ團體生活の必要上婦人は教育されて居ま

した、

そして、久しい間、女子に正式な學問を拒んだ理由は、女子が國家のために爲し能ふ最も有益な役目のためには、男子の發達のために適した敎育法は適當でないと云ふ信仰があつたからです。

けれども、個人としての仕事を爲す機會を女子に抗むことに對して、民主々義の原則が女子の心に反逆心を起させました。そして、婦人運動の生れとなつたのですが、其の婦人運動の第一步は男子のために男子が造つた學校を女子のために解放させることでありました。そして、覺醒したと云はれる婦人は男子と同じような職業の準備をするようになりました。

歐米に於て、女子の入學を拒んだやうな大學は、其の最初に於ては、男子なら誰でも入學させたのではありません。極少數の特權を持つ男子のみが利用し得る學校でありました。そして、其の目的は一定の仕事を成し得る人物を養成することでありまし

た。たとへば國政を處理する手腕を養ふとか、産業界を支配し得る能力を養ふとか云ふようなことでした。つまり首領を養成することが目的でした。

物理學、經濟學、及び社會科學が生れたのは、昔の文明が要求したよりも、より多くの首領が必要になつたからです。そして、婦人も其の首領の仲間にならうとして高等敎育を要求したのです。

そして、彼女達は、丁度、成金が家柄を欲望するように、學問に志して日が猶淺いにも拘らず、男子が獲得して居る知識の全部を自分も獲得しようとして古典に重きを置いて、實際的の科目を輕視して居ました。けれども一つの學術上の職業を得るため、或は、敎育者になり得るための科目はとつてゐました。

併し、多くの女子がより高尙な敎育を受けるようになつたと殆んど同時に、女子が高等敎育を受ける機會が廣くなりました。則ち歐米に於ける州立大學の增加はいろいろの方面の職業を女子に授けると同時に、男子と同じく女子の指導者養成の範圍が廣

くなつたことを語るものであります。

三

女子の高等敎育の範圍が廣くなつたと同時に、新しい二つの運動が始まりました。それ等の運動の社會的價値は、まだ、充分には認められて居ません。けれども、其れが既に大學に於ける科目の上に、又は、高等敎育を受けた婦人の職業の上に無量の影響を現してゐます。

其の二つの運動のうちの一つは一般普通人にたやすく文明の恩澤を浴さしむるように社會狀態を改良すること、もう一つは變態な、又は、發達し得ない人間を科學の力を用ひて改良し、同時に、さう云ふ人間が再び生れないようにしようとする運動です。防がうとすれば防ぐことの出來る病氣や、貧乏や、又は、罪惡の犧牲を其のまゝにして置くことは、合理的な社會的自覺と、有効な社會的制裁がないためであると云ふことが、此の頃は益々はつきりと了解されて來ました。そして、其等の病氣や貧乏や罪

惡と戰ふことの出來る人物を養成する學校を造るのは社會の義務であると云ふことをも社會は自覺して來ました。

實に、教育は、普通人の幸福のために普通人を敎化し、無學を擊退し、智識を增進させるものであると云ふことを人々は意識して來ました。其の結果、衞生、食物供給、家屋、市街の整理、更新、經濟的改革、政治の社會化、及び其の他の社會改良に資する問題が大學中學及び、小學の課目の中に迄も入れられねばならぬようになりました。從つて、他の一方には、又、慈善家の仕事を一つの職業となすようにもなりました。慈善學と云ふものも出來ました。

そして、それ等の應用社會學の要素はだん〳〵と職業の範圍に這入つて行つて、今日に於ては、社會事業及人事を取り扱ふ仕事が敎養ある婦人の職業となりました。そして、それは婦人の性情に適した仕事であります。職業を持つとしても、婦人は女性としての本能に從つて職業を選むことが最も有利です。たとへば、兒童の世話をする

とか、靑年男女の道德上の保護者になるとか、老年者や弱者の世話をするとか、迷ふて居るものゝ相談相手になるとか云ふことは、女性の性情に最も適した仕事であります。社會が合理的に人道的になり始まつた以來、さう云ふ仕事が多くなつたのですが、さう云ふ方面には重に女性の努力が必要です。

家政と云ふ一課が女子大學の科目に附け加へられた時に、一方に於ては、女子の高等敎育をして、妻とし母としての高尙な婦人を養成する必要な企てとして歡迎されたと同時に、他の一方に於ては、さう云ふ科目は女子の意志を保守的にしようとするものであり、且又、女子の高等敎育の標準を低くするものだと云ふ攻擊もありました。

けれども、家政を學ぶと云ふことは文化の要求に叶ふものであります。私共の環境を科學的に改良しようと思へば、矢張り、其れに付ての深い廣い知識が必要でありますから、家政を學んだ婦人が家庭に入るならば、彼女の家庭は文化の進んだ現代にふさはしく科學的に處理されて行くでせうし、もし、又、彼女が家庭に入らず、社會的

に働くにしても、さう云ふ知識は無限に有益であります。

家政は一般の社會組織と密着な關係があります。殊に、産業の盛なる現代に於ては家政に關する知識が必要です。家政を本當に學んで、學校を出た婦人は食物に關する專門家として病院又は大旅館などの賄を指揮することが出來ます。洗濯業を營むことも出來ませう。看護婦として働くことも出來るし、又は、化學研究所に於て働くことも出來るし、建築家として、或ひは、屋内裝飾家としても働くことが出來ます。

そして、それは、皆、一般家庭と關聯して居るのであるし、又一家庭のうちの母とか子供とか云つて個々に關係して居るのではなく、一家の全部に關係してゐるのです。そして、彼女等の仕事は一般家庭生活の向上に資する處が莫大でありませう。そして、さう云ふ婦人は、たとへ、結婚をして子供を持たなくても、社會に對して、女性としての獨特の貢獻を爲し得るものであります。

けれども、エレンケーは、さう云ふ婦人に對してゞすらも結婚をして母になること

を希望して居ます。法律によつて結婚を强制するのではなく、社會學者ウォードの所謂アトラクテブメソドによつて結婚をさせよう、つまり、高尚な婦人の心を結婚の方へ向けさせたいと云つて居るのです。

エレンケイの議論は單純で一直線です。つまり、婦人が社會のために爲し得る最上な貢獻は、賢い完全な母となることです。けれども、賢く完全に母としての精神的な職務を果すために、經濟上夫にのみ頼らねばならぬと云ふことは正當でない。次代を生み育てると云ふ重大なる社會的の役目を持つて居る間、もし、夫に經濟力が無くなつた場合に、母自身が自分と子供の衣食の料をとるための仕事に從事しなければならぬと云ふことは、社會のために非常な損失である。故に、社會は國家と云ふ機關を通じて母の社會的の役目を認め、それを保護しなければならぬ。勿論國家は專門的な智識を持つて女子敎育を監督し、母としての訓練を與へ、母としての能力の標準を定めなければならない、そして、母とならなかつた婦人はいろ〳〵の形式に於て母の助手

となるべき職業を持つべきだと云ふのであります。

エレンケイの此の議論に對する根本的の反對論は、夫婦關係を社會的に小さなものと爲し、父たる者を單なる生物上の必要としてしまうと云ふことでありますが、實際、父親の位置を輕くしてしまうことは望ましくありません。

父親を家庭に止まらしめ、子供のために親は母一人であつたのを父母の二人にするに付ては社會は非常な苦心を經てゐます。一定の場所に落ち付くことを知らず、處々方々を浮浪して歩いて居る男を家庭に止まらしむるために婦人は男に服從し、子供は法律上父の奴隷になり、そして、男の非社會的な戰鬪的な精神が其のために發達して自己の家族の幸福のために、他人の家族を犧牲にすると云ふ悲劇も度々生れたと云はれてゐます。けれども、同時に、男は自分の家族のために自己を犧牲にし、そして、勞働に親しむ倫理的の習慣を獲得し自然の富源を開拓し、人間の能力を發達させ其れ等が聽て社會の進歩に貢したと云はれてゐます。

ですから、父としての義務を男子から除去してしまうことは社會の損失、且、危險なものであるに相違ありません。實に、今日の社會に於ての禍患の大部分は男子が家庭に對し子供に對し其義務を負はないことから起つて來てゐます。勿論、それは、多くの男子が人間として餘り多くの缺陷を持つて居るからです。人間として立派だが併し父としては惡かつたと云ふ人間が存在して居たことを歷史は語つてゐません。

こう云ふ狀態を記憶してゐて、母は自分と子供の物質生活を絕對に夫に賴つて居ると云ふことは危險だと云ふエレンケーの意見には賛成しないわけには行きません。結婚の不完全、家庭生活の不安定は餘り多過ぎて、そして、それは次代のためには餘り重大なる問題です。殊に、大多數の勞働者の經濟上の位置は餘りに當てになりません。生理的に、知力的に、道德的に强き母性の要求に應じるには今日の勞働階級の貧乏な家庭は貧弱過ぎます。有產階級の家庭は道德的な力が薄弱過ぎます。

ですから、母性は或種類の母性保險によつて國家的に保護しなければならない社會

的作用であります。餘りに多くの子供を、生理的に知力的に道德的に不具にすることを恐れるならば、國家は母性保險の制度を設けなければならない、寧ろ、それを家庭保險と云つてもいゝでせう。

四

女子の高等敎育が盛んになり、そして、女子の智能が啓發され其の理想が高くなればなる程、結婚と云ふことが困難になると云ふのは事實です。

と云つて、それは、高い理想を持つ婦人は結婚を嫌ふと云ふのではない。不品行な男子を自分の配偶となすことに耐へられない。そして、大部分の男子は不品行であるから止むを得ず結婚を控へて居るのです。ですから、女子の高等敎育が盛んになればなる程、品行を愼む男子が多くならなければ、高尙な女子は結婚を避けて職業を求めなければならない。そして高尙な女子が職業を求めれば求める程、それが男子のためには二重の不利益となります。つまり、高尙な婦人を妻にすることが出來ない。其の

上に、それだけ、職業上の競爭者が殖へることになります。のみならず、高尙な婦人が結婚を避けて居るならば次代は愚婦愚母の子供ばかりになりますから、社會の損失は莫大です。

これは、決して、望ましい傾向ではありません。なぜなら、人格の養成と云ふことゝ、社會の共同一致の原則とが一致しなくなり、そして、社會の破壞と云ふことになりますから。其處で、女子の高等敎育が盛んになるに連れて男子の品行が改まるならば誠に好都合ですが、今、差し當つて其れが望まれないとすれば、結婚をしない女子の女性としての使命に付いて考へて見る必要があります。

そして、それは女子の高等敎育は社會敎育でなければならないことになります。則ち、敎養あり、けれども、結婚をせず、生理上の母にならない婦人は、生理上の母が健全なる次代を生み育てることに努力して居ると同じように、健全なる社會理想を生み育て得るようにならなければならないのです。

これで今迄は左右に別れて居た母性問題と婦人職業問題の總合が出來るわけになります。

まだ、云ひ足りないのですが、餘りに長くなりますから、結論として前に云つたことを繰返して此の稿を結ぶことにします。婦人の人格の完成を期し、社會共同生活を强固ならしむる社會原則は、婦人の母性としての經驗によつて解釋され、應用されねばなりません。そして、其の任を婦人に果させるためには、社會敎育を授くることによつて婦人の知力的及倫理的の平面をズット〳〵高くしなければなりません。

世界大戰爭が最も鈍い社會意識の上に大きな彈丸を投げ付けた其の印象よりも、猶大きな一つの問題が、今、世界にありますが、それは、各個人の良心と理想と抱負とが破壞されてしまうことの代りに、それ等が新時代の要求なる新しい社會秩序と如何にして調和され得るかと云ふ問題です。

そして、其れは今迄にも人間を一人々々生み育てゝ居た婦人、今猶生み育てつゝあ

る婦人、これからゝ生み育てて行く婦人が社會構造の最高な建築者となり、此の最も精神的な問題則ち眞の社會共同を實現する方向に人類を導かねばなりません。そして、女性の此の最高な任務を果すためには、一部の女性が次代を生み育て、そして、他の一部の女性則ち結婚をせず、生理的の母とならなかつた婦人が生理的の母と力を合せて次代の理想を生まねばなりません。

そして、其任に當る婦人を養成するのが婦人の社會敎育であります。

さう云ふ婦人を養成するためには、社會はどんなに高い價を拂つても、それは決して高過ぎるものではないことを一般に了解して頂きたいと思ひます。

此の頃の新聞の社會記事は毎日々々戰慄すべき慘殺事件又は自殺事件で埋まつてゐますが、此の罪惡は社會の內部に充溢してゐる毒が偶々外部に現れたに過ぎないものです。

其の同じ毒は私共の知らぬ間に常に社會全體を殊に經濟界政治界を犯しつゝあるものであります。



獨逸に於ける新道徳樹立運動

一

此の一年この方私共十人ばかりの婦人が毎月一回づゝ集まつて時事問題に付て又は、其の外あらゆる社會現象に就て批判し合つたり、研究し得たことを交換し合つたりして居ますが、ツイ此の頃の會には『男子の徳性涵養』と云ふことに付て話し合ひました。それに對して皆様から有益なお話がありましたが、私の申たことは、先づ第一に家庭内及び社會の空氣を潔くしなければならぬ。そして其の空氣を潔くするには世間から學者と仰がれて居る人や、藝術家又は文學者として青年男女からもてはやされて居る人達に非人格的な行爲があつた場合には其れに對して力強い社會制裁を加へるのが有効であらうと云ふようなことでした。

さう云ふことに就て考へてゐる矢先、フト、目に付いたのは或る雜誌の獨逸の青年團の新道徳樹立運動の記事でした。

最近に於て、獨逸では、遊蕩的文學の害毒を堰きとめようと云ふ企てに於て、諸學校の先生達が集めた俗惡な文學の書物を荷車に幾臺も〳〵積んで或る處に運び、警察の手をもつて燒き捨てさせたと云ふことですが、さう云ふ非常手段が實行されるのも前述の青年團の感化が餘程與つて力あつたと思ひますので其の青年團の起源及び運動の方法を御紹介して見ます。

獨逸青年の其の運動に比較し得るものは英國にも其の他の歐洲諸國にも存在しない。つまり、それは、他國とは異つた獨逸の社會上及び經濟上の狀態が生んだいろ〳〵の社會力の如くに、獨逸國に自然に發生したものだと云はれてゐます。

で、此の青年團のお話をするに付ては、聊か獨逸の歴史に遡つて見る必要があります。

三十年戰爭とナポレオン戰爭のために隨分疲弊しきつてゐた獨逸は、其の上にも亦舊い文化の力と少しの融通もきかない傳說の勢力に壓倒されて國民は苦しんでゐましたが、あの普佛戰爭後は急に非常な勢力を得て、たちまち、歐洲に於ける最强國となりました。すると、其の圖に乘つて、今度は世界を統一しようと云ふ大野心を起しました。そして、其の野心の目的を達するには、どうしても國民の力をありつたけ搾取しなければならないので、獨逸國に於ける最高な德はどんな困難にも耐へ得ると云ふ覺悟をするこ

とでありました。

其のうちに蒸氣機關の發明は機械の時代を生み、引ひては産業の時代となりました。そして、田舍の人々は都會に集中し、都會が非常に繁榮すると同時に、資本主義が個人を呑んでしまいました。個人は、いはゞ機械を使用する矢張り機械で個人としての生活を味はう餘裕を持たなくなりました。「時は金」と云ふ標語を守つて、金を貯めることが人生の重もなる目的となつてしまひました。

二十世紀の始めに於ける獨逸の産業組織は何でも莫大なる物品を産出することでありました。ですから、都會に於ては、如何なる階級の兩親も自分の子供にかまけて居る時間などは持たなかつたのです

そして、國民は千年も前に生れた文化の形式のうちに押し込められて居ると云ふ狀態でありました。其の結果は不誠實と虚僞が特色となりました。そして、國家及び敎會は壓制と威嚇によつて秩序を保たうとしました。敎會は來世に於ける天罰と云ふことによつて國民を威嚇し、國家は規則、禁止と云ふものを無暗みに造つて此の世に於ける罰を多くしました。軍國主義によつてさう云ふ風に組織された國家に於て個人が成功する道は、唯、官界に入ることでありました。國民はズン／＼官界に吸込まれて行きます。そして、さうなると、年齡と階級と稱號が凡てゞありますから、弱年であり何等の稱號も持たない靑年は無價値な人間である

と云ふことになつて、此の道德法があらゆる方面に適用されるやうになりました。

其の上に青年のためには第二の家庭であるべき筈の學校が、又、人生の實際生活には無關係の傳說や條件によつて妨げられて本當の意味の發達を制限されて居ました。ですから、學校は意志と人格を精鍊する場所である筈ですのに不誠實と精神の疲勞を釀す空氣を造つてしまいました。生きた發達には役に立たない知識の重味で生徒達は押しつぶされそうになりました。生徒達には倦怠があるばかりで喜びがありません。教師と生徒の間は大抵の場合ひ師弟の親密さがある代りに暴君と降伏者の關係でありました。

もし、學生が大學に入るならば、彼はまづ其處の團體に加入しなければなりません。そして、嫌やでも應でも自分が加入した團體の既定のキャップを被り、リボンを付けて、そして、中世紀の笑ふべき儀式に從はなければなりません。又は、決鬪に於て顏に傷を受けるとか、嫌いな酒を無理に呑むとかして噓の名譽の觀念を承諾しなければなりません。それから又、其の所謂名譽の決鬪に於ては大學教育を受けてゐない者は其の相手になる資格が無いと斷定されて居ました。

女子教育も、勿論、誠に不自然な噓僞な狀態の下に行はれ、實業階級に於ては、又、被雇人は幼少の頃から、其の職業にのみ沒頭せしめられてゐて進步向上の道

を求むるなどと云ふ餘裕は少しも持たないと云ふ狀態でありました。

二

獨逸の青年達は、もはや、其の嘘僞な生活には耐へられなくなりました。且つ又、獨逸の國家の基礎となつてゐる其等の僞善や不誠實はカールマルクスに都合のよい攻擊材料を提供しました。ニーチェには空想の材料を、つまり、夢みる機會を與へました。ヘッケルもデリッチも、皆、其の點に立脚して彼等の思ふ存分な罵詈讒謗を哲學化しました。それ等の學者や社會革命家の言説は花火のように高く美しく擧がつて獨逸青年の暗い世界を輝しました。けれども、軍國的の國家は頑强にそれ等の青年達の希望を無視してゐました。そして、猶、國民を壓迫することに屈托して居ました。

それは二十世紀の始めでありました。獨逸青年は、既でに無用なそして生命なき文化の殼を脱し、彼等自身の獨立な生活を得るために運動を起し、奮闘しようと決心しました、彼等は豫言的な目を擧げて、一體、青年と云ふものは凡て新しい思想の自然の提出者であり、其の支持者である。これに反して、老年者は家族とか財産とか職業とかと云ふ事に頭を奪はれて自由なる活動不能となつてゐる。青年は理想に向つての盲目な慾求者である。青年は創造的で恐れを知らぬものである。』と絶叫して、至る處に堆積して居る社會的の黴を指摘しました。

獨逸青年が既成の文明に對抗して立つたに付ては大分ニーチエの感化があつたのでした。心身のより大なる自由に對する烈しい欲望はニーチエの教へに注入されたのでした。即ち、自然に對する愛、音樂、藝術を渇仰すること、新社會建設の希望は其處から生れて來てゐます。彼等は兩親に對する新しい道德、宗教に對する絕對の正直さ、又彼等の生活の樣式及び、彼等の感情を表現するに付て絕對の誠實を要求して居ます。そして、彼等は新しい道德の標準を建設しました。それは教會と學校の昔の理想とは全く異つたものです。則ち、盲目的な信仰と柔順と嘆美と禮拜とを拒絕することでした。

三

獨逸青年の此の内心の變化は運動の必要と云ふことゝなつて現れて來ました。ローマンテツクに本能的に歸へらねばならぬ運動となりました。そして、中世紀の遊歷者の精神にならつて、一九〇一年に『渡り鳥』と稱する一つの會を設立しましたが、それは伯林の郊外の學校の生徒達でした。彼等は先づ第一に常に所々方々を遊歷して發見の旅をしようと企てました。處が、此の企てがまるで、野火のやうに忽ちのうちに全國に擴つて行つて其の主旨の下にいくつも／＼の會が設立されました。たちまち、田舍地方は何處へ行つても、其の會員なる青年達が一定の服裝をしてギタか何かの音樂を先頭にして運動してゐるのが見られるように

なりました。

勿論、それは唯外部に現れてゐるかたちであつて、其の目的とする處は精神的の向上でした。ですから、彼等は相互を理解し、信じようとする感情をもつて非常に親密にして居ました。彼等は、又、人生に無くてならないものゝ外一切の無用なものを排し、同時に、自己の責任と云ふことに留意して居ました。で、先づ、此處から獨逸に於ける新しいタイプの青年男女は生れたのでした。つまり、意志は強く、獨立で單純で、其の上に社會に對し個人に對し同情的でなければならぬと云ふ信念に燃へて居ました。彼等は自由を要求して立つたのですが、それが二つの方向に流れて行きました。つまり、二派に分れたのです。

其の(1)は、獨立な元始的な自然な生活の様式、則ち、自己の食物は自己の手で屋外に於て料理することで、そして、其の(2)は健康のための體的訓練と音樂及び藝術に對する趣味の涵養と云ふことになりました。けれども、其の兩方に共通な點は冒險を好み、肉體及び精神の純潔を期し、階級や位置を無視し、偏見を排し、廣く社會のために個性を發達させることに努めようとすることでした。

それから、それ等の別々な群は皆それ〴〵の特長ある人物を其の群の團長に選んだのでありますが、併し、一九一四年のあの大戰爭の勃發は其等の團長を皆戰場に拉し去りました。そして、再び團長

と云ふものが無くなつてしまいました。

四

これより先き、或る舊派に屬する賢い政治家が、それ等の青年が親の許を離れて青年同志で生活する必要を認め、それを奬勵する意味で、彼等が行く先き〲に於て自由に飲食をし、又、宿ることの出來る場所を造りました。それは一八八四年であつたのです。

以來、其の組織は獨逸國內ばかりでなく、墺地利の方に迄も延長されて行きました。そして、全體に渡つての連絡がとれ、各都市には彼等のホームが建設され、遠い田舍へ行くならば、ホテルでも農家でも無料で其等青年運動者を宿泊させますし、其の外、或る土地では其の土地の

組合が古い城を買つて提供したり、又或る處では空家を買つて其等の運動員の便宜を計つたりしました。

最初の運動員は僅か二十一人であつたのですが一九一三年には其の遊歷者は七九四九八人ありました。けれども、其の翌年があの戰爭でありました。あの戰爭が終つた一九一九年には彼等の數は九〇〇八人に減じてゐました。けれども、一九二〇年には彼等のためのホームは七百以上もありました。家具と云つても料理するストーブと敷蒲團と毛布とそれから粗末な洗面器だけでありました。

其の團員は最初は中學及び大學の生徒に限られてゐましたが、けれども、後には商人も勞働者も職人の弟子も加入する

ようになりました。處が、職人の弟子にはまる一日の暇がなか〳〵出ないので烈しい反對運動が起り、ツイに日曜日は終日自由であると云ふことになりました。同時に、勞働階級にも、勞働は單に其の日のパンを得たり金を殘すことばかりが目的ではなく、精神生活の表現でなければならぬと云ふことを植へ付けました。

ツイに國家も最早青年の希望を無視して居ることは出來なくなつてあちこちの學校の組織を變更しました。改良され進歩的になつた其等の學校は生徒自身が經營して、そして、其の精神は『敎師は單に生徒にものを敎へるばかりでなく、生徒と生活を共にすべきだ』と云ふことであつて、獨逸に於てはどんな學校でも月に一度は必ず長い遠足をすることになつて居ると云ふことです。

新敎、及び、舊敎の敎會も此の青年の運動に非常な興味をもつて、そして、それにならふて暑中休暇には神學の生徒にバイブルクラスを擔任させたり、彼等自身の會の組織させたりしてゐます。

且つ又、最近に於ける獨逸共和國政府が發した訓令によると、『宗敎の撰擇は學生の自由意志に任せて置く、けれども、貧乏人の子供のために社會奉仕的な仕事をする義務がある』とあります。

五

獨逸の現代政治界に於ける政黨間の軋轢のうちに各政黨は前述の青年運動員達を自黨に引き入れようと競ふてゐます。

これらの青年團體は地方々々に於て組織されてはゐますが、併し、一つの中心點を持つてゐます。至る處の教會に於ては其の公會堂を彼等のために提供し、其處で時事問題などに付て討議させます。各團體が其れ自身の雜誌を發行し、年報をも出してゐます。一九二〇年には十萬人以上の青年がチユウリンギアの古城に會合しましたが、その目的は政治に關することではなく、全世界を抱擁する青年同盟を組織しようとする企てゝありました。

彼等の運動の價値ある收獲の一つは、一時はすたつてゐた手仕事や細工を復活させ、社會上、名譽ある位置に其れを置きかへ、かくして、其の仕事や細工に新

しい生命を注入したことであります。又藝術方面の收獲は久しい間忘れられてゐた俗謠や單純な田舍踊りを復活させたことであります。文學の方面に於ては、まだ、いくつかの御伽噺や兒童用の繪本を造つた位ひのものです。けれども、此の運動の新現象として見るべきものは、團員である話上手な若い娘が村から村を渡り歩いて、田舍の人達をリンデンの樹の下や、又は物置きや、或ひは又、臺所などに毎晩あつめて面白く話をして村人を喜ばせると云ふことです。

新道德樹立のためにこれらの青年男女によつて組織された此の道德的十字軍は現代の社會改革の歷史に於て重要なる役目を果しつゝあるものに相違ありませ

ん。

今回の世界大戰爭に續いて起つた獨逸の大革命は國民を苦しめてゐた大嵐を吹き拂ふことの代りに益々經濟上の苦しみを強くしました。其の結果は惡德が盛んになりましたが、其の惡德から國民を救濟しようとして立つたものは矢張り其等の青年男女でありました。彼等は酒や煙草を禁止しました。猥褻なビラを出したり書物を賣つたりする商店に對して、不買同盟をしました。活動寫眞や演劇に於て不道德な所作があれば、一般人にそれを排斥させるために辻々に貼札をします其の上にも其の不德を責めた印刷物を一般に配付します。そして、不道德を增進するやうな劇場や商店のブラックリストを造つてゐます。今の處では其れが大勢力になつてゐるとは云へない迄も、確かに彼等が正しい方向に向つて進みつゝあると云ふことは出來ませう。

今日の社會制度に反對して立つたこれ等の青年は確かに彼等の心の底からほとばしり出た純眞な心の要求からです。で彼等は彼等が社會を改良する前には彼等自身を改良しなければならぬと云ふことを忘れてゐません。そして、人爲的な階級や社會上の位置などは全然無視して、個人々々の功績によつてのみ他人を認めようとしてゐます。

彼等は殊に衣服の流行などを嫌つて、身には粗服を着け、常にわらじ（底ばかりの靴）を穿いてゐます。女子は田舍風

の衣服を着て常にギターを持つてゐます。なぜなら、青年男女の運動には常に音樂がつきものだからと云はれてゐます。若い男女のあつまりですから彼等の中にラブメーキングがあるのも自然です。けれども、いつも衆人環視の中にあるのですから其の仕方が潔白であると云ふことです。

　彼等の運動振りは一見氣樂そうで愉快そうであります。併し、彼等は彼等自身の使命の重大さを自覺し、自信力と云ふこと及び責任觀念と云ふことを自分自身にも亦團員同志にも要求して居るので烈しい克己の精神が必要であると云ふことは此處に云ふまでもないことでありませう。

科學と信仰

　科學と信仰とは相容れないもののように思はれてゐますが、然し、科學は矢張り信仰の上に截つてゐます。則ち、因果關係はユニヴアサルであると云ふ信仰、凡ての結果には原因があり又凡ての原因には結果があると云ふ信仰、そして、存在してゐるものは如何なるものでも價値があり、其の價値あるものは知る必要があると云ふ信仰、そして、最後に、眞理の發見は必ず人類を益すると云ふ信仰、これ等の信仰の上に科學は截つてゐます。

　そして、其の科學的精神とは、其の科學が創造するものよりもより大なるもので、其れは寛大、同情、及び純粋なる共同を意味するもので、此の三つの性質を帶びた精神は其れを表現する形式の如何に拘らず科學的精神です。故に、不合理に眞理を私して居ることは、常識的な誤解よりも却つて害が多いものです。



獨逸勞働者を支配する思想（海外視察談の一）

山田嘉吉

今日の歐洲に於て、重大なる問題は何と云つても獨逸である。國際政治の問題、産業問題、又は、國民主義の勃興と云ふ問題にしても、皆、獨逸を中心に廻轉してゐる。殊に、産業の問題に付ては其の焦點が獨逸である。と云ふのは、獨逸の賠償問題が、佛蘭西は云ふに及ばず世界各國と政治的に經濟的に關係してゐるからである。獨逸自身にとつても、此の賠償問題があるために、凡ての事柄を順當に運んで行くことが出來ない。

獨逸政府の數字的説明によれば、政府の支出は其の收入によつては半分をも償ふことが出來ない。そして、其の不足は公債によつて補つてゐるのである　現在に於て必要なものを支拂ふにすら國債を募る有樣であるから償金處の騷ぎぢやないと云ふのである。

けれども、獨逸國民は果して此の數字的説明が示す如く窮地に陷つてゐるかど

うか？　普佛戰爭の時、佛蘭西は一日も早く獨逸へ償金を拂つてしまはうと決心した。其の結果約束の日よりも早く其の償金は拂はれたのだが、其の時の佛蘭西の狀態は今の獨逸と同じように數字的に說明したならば到底其れは支拂はれ得るものではなかつた。けれども、佛蘭西人は支拂はうと決心したのだつた。決心したから支拂へたのである。

　アルサス・ローレンと云ふ石炭の大產地を奪ひ取られ、疲弊に疲弊を重ねて居たにも拘らず、佛蘭西人の決心は無から有を生み出して償金をとゝのへ獨逸に支拂つて幾分なりとも敗戰の恥辱をそゝがうとした。けれども、今日の獨逸人は、たとへ普佛戰爭の時の佛蘭西人と比較して種々相違ある事情を持つて居るとは云へ其の時の佛蘭人のような心がけを持つて償金を拂はうと思つてゐない。自分等の生活を充分にして置いて、餘まつたら拂はうと云ふのである。

　獨逸人が拂ふ量見になりさへすれば其れは不可能なことではない。彼等が今日所有してゐる殆んど準備金同樣な有形無形の財產は莫大なものであるし、又、中流以上の獨逸人が海外に所有してゐる資本の如きは名目はどう云ふ風にごまかした處が、彼等が大規模の商業を營んでゐることによつても明白である。此の點に關しては佛蘭西人が精密に調べて、そして、獨逸の反省を促して居る處である。

　歐洲人、殊に、獨逸人は今日如何なる

考へを抱いて居るかと云ふことを知つて置くことはこれからの我々日本人にとつても重要事であるから、其れに付て私の觀察し得たことを話して見よう。

前にも云つた通り、獨逸國民が本氣になつて償金を支拂はうとしないに付いては、いろ〳〵の原因もあるだらうが、併し、其の主もなるもの丶一つは彼等の國民性と、もう一つは彼等の受けた政治的乃至は社會的の敎訓から來てゐる。つまり、獨逸人は非常に出しぎたないと同時に儲けることには人一倍で、儲けるためには隨分道德を無視しても平氣でゐると云ふ風がある。其の上に、彼等は社會主義的の敎育を受けて來た。或る程度迄は彼等は社會主義の信仰を持つてゐる。其の結果、社會主義者の特長なる受けることに熱中して與へることを等閑にすると云ふ性格を造つてしまつた。

償金支拂ひをしぶつてゐるもう一つの原因は、支拂ふ能力を持つてゐる國民が政府を信じないことである。つまり、彼等が政府の社會主義的施政に對して半信半疑で居るからである。で、目下の傾向はだん〳〵と社會主義にあき足らなくなつてゐる。

此處で、少しく前に遡つて、獨逸人が社會主義を信ずるようになつたに付いてはどう云ふ經路を取つたかと云ふことを知る必要がある。

一體、政治學說としての社會主義は、むしろ、宗敎と云つてよい。それは、一

九一四年に於ては、先づ、歐洲の大多數の勞働者によつて信仰された一種の宗敎である。

けれども、此の社會主義と云ふ宗敎は資本主義から生れたものであつて、其の主義のうちに含まれてゐる思想のオリジンは十八世紀及び十九世紀の英、佛、及び其の他の國々から來てゐる。獨逸人に云はせると、それは中世紀から來てゐるとも、又、それ以前にゐつたとも云つてゐる。社會主義が獨逸に這入る前、それは英國に於ても一時流行したことがあつた。そして、一八三〇年頃の幼稚 社會主義と今日の露西亞張りの社會主義との間には非常な似よりがある。が、とにかく、社會主義が先づ勢力を得始めたのは一八四〇年頃の西歐に於てゞあつた。

マルクスは十九世紀の産業界が俗惡であることを發見した。彼の社會的診斷は科學的で正確であつたに違ひない。彼の現代文明に對する判決は依然と有力であらう。マルクスは確に、産業的新敎主義の豫言者であつた。

併しながら、あらゆる種類の人間がどうしても一緒に生活しなければならない社會に於ては愛國主義だけでは足りないと同じように産業的新敎主義だけでも充分でない。其の上に、マルクスは社會的價値を代へることなく、單に、社會組織を代へることによつてよりよき社會狀態を現出し得ると信じてゐたことによつて誤まつてゐた。それにも拘らずマルクス

は其の運動に於て首領となつた。

社會主義が現代に於て流行するやうになつたのは、丁度、羅馬帝國に基督教が侵入して行つたのと同じようなものである。社會主義の叫びは確に一部の人々の心を捕へた。つまり、下級階級に屬する人々の心を捕へた。そして、或る人は『社會主義は昔の猶太の救世主の思想をポケットエデション（縮冊）にしたに過ぎない』と云つてゐる。勿論、宣傳する上に於ては、基督教の場合よりも、社會主義の場合の方が困難が多いに相違ない。なせなら、基督教は坐して居て出來事があるのを待つて居ればよいのに反して、社會主義は變化を造り出すために積極的に働かなければならない。つまり、新しい幸福な世界を造り出すと云ふ宗教的な信仰を植へ付けるために、具體的な教會を建てる代りにユニオンと云ふ機關を造る必要があつた。

けれども、基督教を信じても直ちに幸福が來ないために、人は除々と其の信仰を失つたと同じように、社會主義が完全に施かれたならば完全に幸福になり得ると考へて待つてゐるうちに、處々に小規模に行はれた實際の狀態を見て、社會主義に對する信仰も除々と薄らぎつゝある。

ハンガリーに於けるボルシエヴイストと彼等の共産黨仲間は、社會主義の天國のやうな社會を現出しようとして資本主義を一撃の下に破壞しようと企てた。處

が、其の結果は社會的カタストローフとなつて終つて、ツイに反革命派の勝利となつた。

露國に於けるボルシエヴイストは殆んど四年越し彼等の政府を維持することに於て成功した。其の代り、無殘な獨裁政治のかたちに於て其れを維持してゐたのである。プロレテリヤ其れ自身にすらも反對した獨裁政治であつて、其の結果は全體の經濟組織を破壞してしまつた。或る一派はレニンの政府が四年越し續いたことをもつて滿足して居る。けれども、もつと理解ある社會主義者にして、經濟的文化的進步が社會主義の眞髓であると信じて居る人々はボルシエヴイストの方法を嫌つてゐる。今の露國のプロレテリアの生活標準の低くなつたことや、生産高の減じたことは、これは共産黨革命の當然の結果であつて一時的の現象ではないと云ふことも立證されてゐる。

處で、其れに對して、共産黨のうちの或る者は云ふ『物質生活の標準の低くなつたこと、及び、生産高の減じたことは露國々民の美的生活によつて償はれてゐる』と。けれども亦一方では、其の美的生活と云ふのは低級なオペラや變手古な舞踏やその外本能の發露の共進會のやうな文藝ものを藝術と稱して居るのだと云はれてゐる。そして、此處にどうしても覆ふことの出來ない事實は、本當の意味の藝術、科學、及び、國民敎育がどうすることも出來ないように破壞されてしま

つたことである。そして、それは露國民の懶惰な貧弱な生活の結果である。その懶惰と低い物質生活が國民の凡ての社會的及び知力的エナージーを麻痺させてしまつてゐるのである。

で、さう云ふ狀態を見せつけられた歐洲、殊に、獨逸の勞働者は、差し當りは人の行く方に行つてゐるが、併し、決して心からそれに心服して居るのではない。云ひかへれば、基督教の初期の信仰が變つたと同じように、社會主義に對する勞働者の信仰も變つて來て居るのである。

其處で、そんならば、彼等はどう云ふことを本當に考へて居るかと云ふと、『差し當りはどうしても資本主義によつて居るより外に仕方がない。資本主義を善用して勞働階級の生活を不安狀態から脱せしめ餘裕を造り、勞働者をして社會的信用の基礎たる產業全部に渡る――つまりものを造るのみならず材料をあつめることから、既製品の販賣からその他一切の資本家の爲すこと等――を了解せしめ、殊に操行に於ては社會から指を差されないように人格を養成し、資本家と勞働者との間の道德上知力上の差を撤消す處迄進まなければならない。』と云ふ處に歸してゐる。それが少數の經驗ある聰明な勞働者達の考へである。

それ等の少數の聰明な勞働者の數は益々增加しつゝあるが併し彼等は不言實行で、從つて彼等の存在は世間に知れ渡つて居ないのに反して、矢張り依然と極端

な社會主義及び共產主義を信仰してゐる人々は少數であるにも拘らず、常に言論に、宣傳に、示威運動にその氣勢を擧げることに努めてゐる。

從つて、遠い處から眺めるならば、如何にも世界の勞働者は皆社會主義及び共產主義を信仰してゐるように見ゆるが、併しながら、事實はその宣傳の力がやうやく衰へ始めて、その追從者も日に〱減じつゝあることは、彼等を直接に觀察する者の目を欺くことは出來ない。

獨逸を觀察してもう一つ見逃し得ないことは、獨逸人の愛國心は戰爭を神聖視して居ることである。彼等の愛國主義は戰爭を富と權力の根源として居る。又、獨逸の大學はきちがいじみた國民主義の要塞である。そして物質上の利益を得ようとすることが獨逸の社會黨を帝國黨にしてしまつてゐる。其の傾向は勿論獨逸の知力主義の上にも現れてゐて高等敎育並びに勞働組合主義ですら戰爭の利益と云ふ理想に奉公してゐるのである。リープクネヒトですら開戰に贊成した。後にはそれを後悔して居たが。何しい獨逸人の特長は自分の利益のためには德義心をも無視することである。其の例は一九一四年七月三十一日ミユーレルは佛蘭西の社會黨と固い約束をかためて置いて直ぐ平氣で其れを破つた。其の同じ日に、ブラッセルに於てハーゼはジョーレスに接吻をした。けれども其れはユダの接吻であつた。

主婦と經濟知識

唯、單に、家庭經濟と云つても、それは決して一家庭の範圍内の問題ではなく、一家の經濟と云ふものは社會の多方面からの影響を受けると同時に、一家の經濟の取方が廣く社會に影響して行くものであること又今日の不況は、その原因が世界の現今の狀況にあるのだと云ふことを私共は先づ第一に心に留めて置く必要があります。

今、歐洲諸國はあの大戰爭の損傷を癒やさうとして躍つこきになつて働いて居ます。殊に獨逸では聯合國に賠償金を支拂ふために物品を出來るだけ多く輸出しなければならない。輸出を盛んにするにはいゝ物を造つて安く賣らなければならない、と云ふところに努力を集中して居ます。獨逸が日本人に合ふやうな下駄を造つて日本へ送らうとして居ることなどは、外國に向くものを造つて外國の金を自國に取り入れることに如何に苦心して居るかと云ふことの最も著しい例です。

歐洲諸國が必死となつて日本に市場を造らうとしてゐる。これが我が國の不況の大きな原因の一つです。外國品が這入つて來れば來るほど、それだけ我が國の產業は衰へます。我が國の市場は外國品に壓倒されて失業者が多くなり、失業者が多くなれば、それだけ購買力が少なくなり、國民生活はいやが上にも不安狀態に陷ると云ふことになります。

今度、世界を一週して來た私の夫の話によると、南洋のジャバでは（勿論、皆樣も御承知の通りジャバは和蘭領ですが）和蘭人が資本を投じ土人を使役して砂糖だの護謨だの茶だのをドンドン產出して居ます。その土人に支拂ふ日給は二十錢か三十錢ださうです、土

人の生活費は本當にいくらもかゝらない。なぜなら土人の着物と云へば、木綿の風呂敷のやうな布が一枚あればよいし、四六時中跣足で居るのであるから、履物の必要はないし、家と云つた處が土間ばかりであるので、實に彼等の生活費は一ヶ月五圓もあれば足りると云ふことです。

和蘭人が自分等の富の增加を計るためにジャバ島の土地を十分に開拓し利用しながら、土人の生活をそのやうな狀態に止めて置くと云ふことは、人道の上から大問題でありますが、それは今此處での問題ではありませんから、別問題として置いて、とにかく、さう云ふ安い勞働者を使つて夥しき物品を產出して、勞働賃銀の高い文明國へ輸出するならば、文明國の產業は到底たち行きません。他の言葉を以つて云ふならば、同じ品物でも、一ヶ月十圓で働く勞働者が造つた品物が一圓で賣れるならば、一ヶ月百圓で働く勞働者が造つたものは十圓で賣らなければならないと云ふことになります。それでは到底競爭にはならない。文明國の產業は半文明國の產業に壓倒し盡されればならないと云ふことになります。

この道理を明瞭に意識して居る歐洲人は、國家の基礎を堅固にして國民生活の安定を計るには、世界の市場での競爭に勝たなければならない、その競爭に勝つには何でもいゝ品物を造つて安く賣らなければならないと云ふことを考へてゐます。私の夫が或る處でトランクを一つ買ひました。すると、そのトランクには「これは良心に恥ないやうに造つてある」と云ふ燒判が捺してありました。商業道德が如何に向上して居るかはこの一事によつても分ります。

世界各國がさう云ふ調子で些々たる個人々々の問題などには超越して國民的の自覺の上に腕ッこきになつて働いて世界の市場を倂呑しようといきまいて居る時に我が國の如き、國民同志がつまらぬことに衝突したり、あげ足の取りつこをしたりして居るならば、やがては、世界の勢力に壓倒し盡されてしまひます。

其處で、我が國民の、殊に婦人にとつての急務は世界的に目を開くことであります。一家の計費を經濟的に取ると云つたところが、徒らにものを惜しんで能率

の減退を來すやうなことがあつては、それは馬鹿なことです。無駄をはぶくことは勿論絕對に必要です。世間體を飾るために餘計な資力と努力を費したり、家族を遊惰に流れさすやうな風に散財したりすることは絕對に避けると同時に、必要なものは十二分に使つて家族の能率を上げて行くことを心がけなければなりません。云ひ直せば、ものをケチ〳〵するよりも、使ふだけのものは使つてより多く產出すると云ふ方に努力しなければならないのです。

一家族の健康と幸福をその双肩に擔つてゐる一家の主婦達は、家族の健康と精神的の慰安を增進するやうに經濟を取ると同時に、石鹼一ツ買ふにも、反物一反買ふにも、それが產業界にどう云ふ影響を與へるかと云ふことに付て一應の考慮を拂はればなりません。

今、假りに獨逸から非常な數の下駄を輸入されたとします、そして、それが內地製のものよりも品質もよく値段も安いとします。其處で、日本國民が皆値段の安いのに引きつけられて獨逸製の下駄を買ふならば、我が國の下駄製造人及び下駄商人はどうなりますか。彼等は期せずして全滅です。そして、これは國民としての立場からも、國家としての立場からも由々しき問題です。

以前、獨逸では內地產の穀物が一升三十錢して居る時に、同じ品質でも輸入品は二十錢でありました。けれども、獨逸國民は獨逸國の農業を慮つて決して輸入品を買はなかつたのです。それが獨逸の農業を隆盛にし、そして獨逸國家の基礎を堅固に築いたのです。

私共は、敢へて外國品を排斥しようとするのではありません。けれども國民生活の安定が脅かされやうとする時に一應考へて見る必要があります。つまり國民生活の安定と云ふことには國民の一致共同か必要です。云ひかへれば、商人も勞働者も皆同じ我が國民でありますから、私ども家庭婦人は一家の經濟と云ふことを考へる時には、彼等の家庭の經濟と云ふことも考慮しなければならないのです。自分の家庭の利益と云ふことばかり考へて居るとツイには共倒れになると云ふことを新時代の家庭婦人は考へなければなりません。

つまり、他人の生活も自分の生活として考へる。其

處に共同一致があり、そしてそれが國民生活の安定を計る唯一の道であります。

一言で云ふならば、世界を通じて吹き荒んでゐる不況風に吹き倒されないためには各家庭婦人の國民的世界的自覺による共同一致が必要です。同時に、虚飾的な、又は遊惰を誘致するやうな冗費をはぶき、家族の生理上精神上の向上に資力を集中し、そして我が國の產業狀態を考慮した上で凡ての買物をするやうに心がけたいものであります。

男子の品行と美術館

不品行と花柳界

もう一ツ私の夫の話に世界各國の都會で一番目につくのは博物館、美術館、又は公園などの立派なことだそうです。その內容が豐富で整頓して居るばかりでなくその外觀の立派なことは全く外國人の目を驚かすそうです。

それに、大きな教會堂、大學の建築物、堂々たる取引所の建物などが、都市に美觀を添へて居ると云ふことです。

殊に、大英國の都市を訪れて、直ぐ、氣の付くことは、古い教會堂の數の多いことと、その上に、其の古い教會堂に大きさに於て立派なことに於て優るとも劣らない宗教團體の建物が建築されつゝあることださうです。

これによつて見ても、英國人は矢張り世界中で最も端嚴な、獨立心の强い、自國の前途に横はる大問題を解決して行くための精神上の準備をして居ると云ふことが分ります。又、それに對する實際的の手腕を養成しようとして居ることは、英國の都市を見る人には外

觀からでも想像出來るさうです。

つまり、英國人はあらゆる方面の事柄に對する態度が平均して居て公平であるのです。則ちハックスレーが『眞理であると云ふことを知ると同時に、さう感じそして、それを直ちに行ふことが神聖な行爲である』と云つたことを、英國人は其のまゝ實行して居るのです。さう云ふ國民が構成してゐる國家であるから、英國は健實であるのです。

そして、英國の國會議員は、英國々會議事堂に立つて辯舌を揮ふ時には、英國々民に對してもの云ふと同時に、全世界に向つて、自分が知り、感じ、行はうとすることを發表して居ることは、大いに私共の學ぶべきところであります。

何處の國でも外國船が出入する港を持つた都は人氣が荒く、人が惡く、市民はみな金儲けに熱中して居て他のものを顧みる遑を持たない。他の都市と比較して非常に利己的でありますが、英國に於けるさう云ふ都市はリバプールであります。

けれども、生馬の目をも拔かうとするほど營利に烈しい其のリバプールに、つまり、大きな外國船が頻繁に出入して營利をのみ目的としてゐる人間が、滿ち滿ちて居るその都市に、世界で有數な美術館が建設されてあることに私の夫は驚かされたと申ました。それはウォーカー美術館と云ふのでありますが、どんなに營利の外に目を持たない人間でも、リバプールに足を入れた人は、必ず、見に行かねばならぬ程、つまり、どんな種類の人間でも必ず惹きつけられねばならぬほど立派な美しいものなのださうです。

中へ這入つて見ると、ロゼテー、レートン、ハント、ギルバート、ミレー、ボインター、バーン・ジョンス、コールデロン、ワッツ、リピエル、ターナー、リッチモンドなどの名畫や其の他の英國や歐洲の名家の作品が陳列してあるし、又、毎年、秋の展覽會には英國及び歐洲各地方から逸品が持ち込まれるのださうです。

この美術館はコリンス式で、入口には十二段の大理石の階段があり、其の兩側にはエンジエローとラッフエルの大きな彫刻像があり、内部には前述の繪畫の外に無數の彫刻があるさうです。で、どうして、さう云

ふ種類の都市へ、さう云ふ立派な美術館が出來上がつたかと云ふと、過ぐる一八七三年に、エー゛ビー・ウオーカー氏が當市の市長であつた時に、氏が市にそれ等の美術品を寄附したことに始まつたと云ふことです。

つまり、ウオーカー氏のリバプール市に對する美擧が根據となつて、リバプール市民の餘裕が徐々と其處へ集められて行つて、そして世界に誇ることの出來る一大美術館の建設となつたのであると思はれます。

さて、問題は其處です。

我が國の營利を目的として居る階級の人々の餘裕は何處へ落ちて行くでせうか？

歐米諸國に於ては、美術館となり、圖書館となり、教會堂となり、公園となる金が、我が國では遊郭の建築費となり、藝者町の繁榮となつて居るのではないでせうか？

東京名所の一つに吉原があり、粹を極め、贅澤を盡した建物の軒をならべた藝者町が誇らかに市中の或る區域を占めて居ることを、心ある婦人達は何と御らんになりますか？

これは我が國民の人生觀が劣等であり、我國の男子の不品行を證據立てるものでなくて何でせう。

外國の男子は常に營利を目的として居る者でも、餘裕の幾分かは必ず文化の向上のために費して居るに反して、我が國の男子の大部分は餘裕のありつたけを不品行の代にしてしまうのです。

今日の社會の狀態は、何が善であるか！　何が惡であるかと云ふことさへも混雜して居て其の見わけが付かないと云ふやうに渾沌として居るのでありますが、これは男子中心文明の行きつまりであると云ふことは疑ふ餘地のない事實です。

で、この渾沌としてゐる社會を改造して行くに付いては、私共は遺傳と云ふものに付いて考へなければなりませんが、一體、遺傳と云ふことは（これは前號でも一寸云つて置いたことですが）とりも直さず模倣と云ふことであつて、これは個人的遺傳と社會的遺傳とがあります。けれども、實を云ふと、まだ遺傳に付いての本當のことは分つて居ません。本當のことは分つてゐませんが、併し、新しい要素が加はることによつ

て變化が起ると云ふことだけは確かです。そして、新しく加へられた要素が善良なものであれば善くなるし惡いものならば惡くなる、と云ふことは誰にでも肯定出來る事實です。

其處で、男性の要素ばかりで成立して居るまつ黒な社會遺傳に女性の純白な要素を注入して行かないことには、到底、今日の惡風は改良されて行きません。

今日までの社會改造事業に指導者として直接に加はつて居なかつたものは、先づ勞働者と婦人でした。猶これを煎じつめて見ると、婦人が社會改造の任に當つて居なかつたと云ふことになります。で、今日まで加はつて居なかつた婦人が社會遺傳に新しい、善良な要素を注入して行かなければならない時に、今、私共は到達したのであります。

で、今、私共婦人が目標として進み行く一つの方向は、我が國の男子達が不品行の代としてゐる餘裕を外國の男子のやうに文化的の方面に使用させることでありますが、さうするに付ての先づ第一着は、出來るだけ多く遊蕩的氣分を排斥して、健實な清淨な空氣を家庭のうちにも社會にも漲らせて行くことです。

長年の間、婦人を自己の玩弄物視することに慣れてゐる男子に媚を賣り、男子の歡心を買はうとしてジャラクラした裝ひに浮身をやつして居るやうな女は、到底救はれることの出來ない奴隷的な女、社會の進歩の障害物、全體としての女性の向上の敵であります。

世界再生と印度の婦人

歐米の學者の西洋文明觀は、殊に大戰爭後に發表したものは、先づ大體に於て云ふならば、皆一致して居ます。則ち、西洋文明はとう〳〵失敗に歸した、どうしても出直さなければならないと云ふのであります。そして、其の理由は、西洋文明は餘まりに物質的であつた。外面の事柄に重きを置き過ぎた結果精神の空虛

な來し精神の空虚は放縦を跋扈せしめ、放縦の跋扈は俗惡な利益の競爭となり、其の競爭の烈しさは社會の構造を搖り動かしてツイに此のまゝでは立ち行くことは出來なくなつたと云ふのです。

一體、文明にはいくつものタイプがあるのですが西洋文明が既でに行く處迄行つてしまつて、つまり、當然到着すべき末路に來てしまつた以上、今後は他の文明によらなければならないと云はれて居るのですが、其の他の文明とは東洋文明なのです。そして、其の東洋文明は印度又は支那によつて代表されて居るものです。殊に、西洋人が今取り入れようとしてゐるのは支那文明で、支那文明に關する著書が續々と出版されてゐます。

其處で、西洋人が今崇拜しようとしてゐる文明の發生地なる支那の婦人の生活狀態はどう云ふ風かと云ふと、彼女達が進歩的であると云ふことを私共は度々聞かされます。けれども、支那婦人の進歩と云ふものは西洋婦人の模倣であつて、オリヂナリチーがないと云ふことを私共は思ひます。これに反して、印度婦人の

生活の外面に現れて居る處は甚だ單純で進歩の跡が見立たないように思ひますが、併し、西洋婦人の模倣でない其の單純な生活のうちに、含まれてゐる或る偉大なるものを私共は考へて見たいと思ひます。

つまり、其の偉大さは精神的方面であつて、印度婦人の蟄居の習慣、夫に對する尊敬心、嫁姑問題に對する解決、母性を神聖視して居る處、最後に、婦人の解放とは、自己が放縦なる生活を營むのではなく、我が子を服從の狀態から勝利の位置に進めようとして居る處に現れて居ます。

で、其の印度婦人の生活はどんなものであるか？聞くがまゝに聊か敘して見ようと思ひます。

印度と云へば、何もかも古いもののように、又、印度婦人と云へば何等の社會的價値がなく、蟄居の生活に甘んじて居る奴隷的な人間であるように多くの人は思つて居ます。けれども、蟄居の生活をして居るから國民生活に何等の感化力を持つて居ないと思ふのが既でに皮相な觀察であるのです。

印度婦人は、歐米の婦人のような所謂自由を享樂す

る機會を與へられても決して其れを喜びません。なぜなら、彼女等は彼女等の蟄居の生活に於て、より多くの、十二分の感化力を國民の上に行ひ得ることを知つて居るからです。又印度の夫は妻を慘酷に取り扱ふように世間は考へて居ますが、事實は決してさうでなく、自分の妻子に精神上物質上慰安を與へようと努力することは歐米の夫達に優るとも決して劣りはしない、なぜなら、自分の妻子を喜ばせなければならないと云ふことは印度男子の一つの信仰となつて居るからです。

印度婦人はゼナヽと稱する婦人室の中に日常生活をして居ます。それは決してトルコやペルシヤの王の後宮と云ふ意味のものではありません。其の後宮と云ふのは王の御機嫌を取ることを仕事としてゐる所謂奴隷的な女が大勢一緒に生活して居る處ですが、印度のゼヽナは決してさう云ふ意味のものではなく、一家族の女性即ち、母、妻、及び、娘達の居所なのです。印度人は決して一夫多妻主義ではありません。

ゼナヽは決して婦人を所謂幽閉して置く牢獄ではなく、それは印度婦人のためには一種の神聖なやしろであります。彼女達はゼナヽのうちにあつて婦人としての義務を盡して居ることを以て誇りとし、喜びとして居つて、公衆の前に引き出されることを非常に嫌ふと云ふこさです。彼女達にとつて神聖と云ふことは俗世間から離れて、つまり、他人に氣付かれずに生活して居ると云ふことなのです。それが理想的な生活だとは思ひませんが、併し、唯單に世間へ出しやばることを進步的だと思つてゐる文明國の輕薄な婦人と比較して見て、其處に或る貴いものが存在することを認めないわけには行きません。

異性との交際は其のゼナヽのうちに於て、勿論、異性と云つても近親のものや義理ある兄弟達なのですが行はれて其れが非常に健全であると云はれてゐます。

結婚をした瞬間から印度婦人は其の姿かたちの上にも生活の様式の上にも大きな變化があります。慎重と云ふことと、靜肅といふこととを生活の眼目としなければならないのです。結婚の日に花婿と始めて顔を見合せる瞬間は一生涯のうちで最も重大事であると云ふようなことを花嫁になる娘は常に母親から云ひきかさ

れてゐます。結婚式のことを一寸申ますなら、それは非常に單純です。式場には火が焚いてあつて、花嫁が花婿の首に花紐を卷きつけるのですが、これが結婚の標象で、つまり、結び付くと云ふことなのです。それから花嫁と花婿とは手を引き合つて七歩歩きます。其の間、此の儀式を司る僧侶が、人生の七期を云ひ現した文句を吟誦します。

結婚式の衣裳は極く單純ですが、併し、腕輪や首飾りに寶石を用ひ、髪飾りも亦寶石を鏤めた冠のやうなものです。それ等の寶玉は父親から貰つて來たいはゞ持參金であつて、それは彼女の許しがなければ彼女の夫でも手を觸れてはならないものです。それは確實に彼女所有の財產であることを彼女は承知して居るのですが、場合によつては彼女は夫のためには其れを手離すことがある。けれども、印度の妻達が死ぬ迄どうしても離さないものが一つありますが、それは左の手にはめた金で覆ふた鐵の腕輪なので、これは彼女の結婚は永久に解けないものであると云ふことのしるしだからです。

式を終つた花嫁はまるで嚴肅な宗教家になつたような態度で夫の家に行きます。そして、人の妻となつた瞬間からは、夫以外の男子の前では常にベールで顔を覆ふてゐます、それは、自分は世間から全く隱退したと云ふしるしなのです。

儀式としての夫の祝福を受ける時に、妻は夫の前に平伏して自分の頭で夫の足を觸はるのですが、これは決して奴隷的な人間崇拜ではなく、夫に對する强い愛情と尊敬の現れであると云はれてゐます。初婚當時は彼女達は夫の愛をより多く得ようとすることの外に何等の希望を持つて居ません。

どんなに大家でも夫の食事は妻が料理し、妻が給仕します。ですから、結婚の初日に於ては夫は妻の料理したものばかりを食べます。そして妻は夫の食事が濟んでしまう迄は何にも口にしない、それが夫に對する獻身的行爲なのです、自分の夫ばかりでなく、一家の凡てのものに食事をさせた後でなければ一家の主婦は食事をしないそうです。

印度の夫婦の愛はあらはではなく、唯々强に誠意を

こめてゐます。夫婦は相互の感化力を知つてゐます。夫に對する最大感化力は妻であり、妻に對する最大感化力は夫であることを承知してゐます。で、一家を成してゐる夫婦の第一の義務は家族の凡てのものが滿足して居るかどうかを注意することです。主婦は自分の家族のものばかりでなく、自分の夫につながる凡ての者を愛す義務があります。又子息達は結婚すると其の新妻を自分の母の監督の下に置きます。

若い妻は子供を一人生むと同時に一種の權威を持つようになり、子供が生れると家庭内に新しい神聖なたましいが降臨したように感じ、子供に對する母親の行爲は皆神聖視されます。母親と言ふ言葉其れ自身が神聖であるのです。ですから、印度では婦人を尊敬するには「母」と云ふ言葉を用ひます。

どんなに若い婦人でも其の婦人を最高に尊敬しようと思へば母と云ふ言葉で呼びかけます。

印度人の思想によると、母性と云ふことに於てのみ結婚が神聖です。母性を考へない結婚は淫樂が目的だと見なされます。それから、再婚した未亡人に印度人の目からは無人格な女なのです。

歐洲の歷史家は申します。印度人は女子の教育を忘れていたと。勿論、印度婦人は所謂教育を受けて居なかつた、つまり、文字を教へる教育と云ふものを受けませんでした。けれども、國民的生活法を徹底的に教へることを教育だと考へるならば、印度婦人は高等教育を受けていたと云へます。なぜなら、普通印度婦人は一家の生活に關するあらゆる仕事、料理のことから一家の經濟のことに至る迄、完全に處理することが出來る樣に教育されてゐますから。

勿論、印度婦人が今のまゝの狀態に居ていいとは決して云へません。彼女達も世界の他の國の婦人達と同じように大いに進歩して行かなければなりませんが、併し、それは、決して、西洋婦人の模倣あでつてはなりません。印度特有のものを益々發達させて行かなければならないのです。

卑近な例をとつて云ふならば、此の頃印度へは歐洲の機械製造品がどん〳〵這入つて行きますが、其の内の石鹼の如きは印度人の體質には有害であると云ふこ

とです。印度人の皮膚のためには、矢張り、昔から使用して居た土や油が最も有益であると云ふことです。そして、これは、精神的の方面にも直ぐ應用出來ることです。

印度婦人は凡ての問題に付て自由に知り、考へ、そして判斷するように修養し、向上して行かなければなりませんが、併し、彼女特有の信仰、即ち、解放と云ふことは自分が放縱の生活に入るのではなく、自分の子供等の運命を降伏の狀態から勝利の狀態に轉換させることであり、其のために努力することであると云ふ其の信仰を何處迄も保持して居て、其處から出立しなければなりません。

我が國とは遠い印度の話だとして私共日本婦人には用のないことだと思つてはならない。前にも云つたように、西洋文明の沒落が近づいたと云ふ聲が高くなつた、今、私共は東洋文明の泉源地なる、印度、殊に、其の泉源地の婦人の生活狀態をよく知り研究する必要があると思ひます。

保守主義と進歩主義の歴史的内容

新潟市での講演に於て、漸進的急進的のことに付て話した時に私は『以前はどうであつても、今日に於ては、保守主義及び進歩主義の内容が非常に變り易くなつて居ます。ですから、革命主義はむしろ保守主義で漸進主義が却つて進歩主義になつて居ます。そして、其の理由はこうです。革命は多くの場合、感情主義であります。感情主義の取る道は自然陶汰であり、從つて、それは保守主義です。これに反して、漸進主義は知力主義です。知力主義は人爲淘汰であり、從つて進歩主義であります。』と申ました。（本誌前號掲載）

講演が終つた時に、或る一人の青年が私に面會を求めて、

『革命主義は進歩主義だと自分は信じてゐる。明治維新の革命があつたればこそ、日本は長足の進歩をした

と思ふ。あなたの云つた「革命主義は保守主義だ」と云ふ斷定に付て說明を乞ふ。」と質問を致しました。

世間で普通に人が使用して居るような意味で革命と云ふことを考へて居る人には無理のない質問でありますし、又、さう考へて居る人も少なくないと思ひますので、次に、其の意味を明らかにして見ようと思ひます。そして、それには英國と佛蘭西の十七世紀以來の歷史を比較して見るのが最も便利であります。

世界に於て、保守的な國と云へば英國であるし、進步的乃至革命的な國と云へば佛蘭西であるように思はれて居ます。國體から云つても英國は君主國であるし佛蘭西は共和國であります。そして、政治、法律、經濟、產業、殊に、文學藝術に於て、常に、新說を世界に提供するのは佛蘭西であると云はれ、そして其れ等に對して英國はいつも保守的の態度を取つて居ると云はれてゐます。

處で、其の進取的であると云はれて居る佛蘭西が果して英國よりも進步して居るかどうか？　佛蘭西國民の幸福は英國民の幸福よりもより大なるものであるかどうか？

保守的と云はれて居る英國が一國民として着々と其の內容を充實させ、健全な國民性を發揮し、世界第一の進步狀態を現出して居るに反して、佛蘭西は常に其の不統一に苦しみ、政治上產業上及び其の他の、國民を指導する所謂進步的な施政が却つて佛蘭西の進步を妨げて居るのはどうしたものでせう。

佛蘭西大革命以來、今日に至る迄の佛蘭西に於ける所謂革命的施政を列記すれば次のやうになります。コンベンション（國民公會。一七九二年から一七九五年迄續いた國會）に次いで出來たディレクトリー（五人執政內閣）は四年續きましたが、其の間に二度もクーデーターが行はれて血を流しました。遂に、此のディレクトリーは暴政と腐敗と不始末の結果、排されてしまいました。

其處で、一七九九年にはナポレオンボナパートを第一の總督として、佛蘭西の總督時代が始まりました。けれども、五年の後に此の共和政體も國家の重任を負ふに足らぬものとして宣告されてしまいました。

そして、一八〇四年にはナポレオンがたう〳〵皇帝となり、再び、壓制主義が設定され、苛酷な徴兵令に施かれ、言論の自由は排されてしまいました。かくして、ナポレオンは亂れた佛蘭西をどうかこうか壓制的に整理しました。けれども、ナポレオンの榮光は長くは續きませんでした。其の後、續々と起つた慘劇を數へ上げるならば、佛蘭西軍がモスコーから退却する時に、數千の佛蘭西人が露西亞の雪の中に命を埋めたこと、露西亞人、墺地利人、普魯士人の佛蘭西侵入、そして、其の後には、佛蘭西國の自由と權利を蹂躪し、憲法を犯したと云ふ理由の下にナポレオンの沒落と云ふことになりました。

大革命後の佛蘭西は、無政府主義、共和主義、及び帝國主義と云ふように轉々として代る政體に苦しめられぬいた上句、又もとの王國に歸へりました。そして一八一四年にルイ十八世が再び王位につくようになつたのです。併し、彼は王位について六ケ月後、エルバから歸つたナポレオンのために、其の王位から追はれました。そして、佛蘭西人のために、又、不幸が續いて起りました。則ち、ウオータールーの敗戰、再び外國の軍勢のパリス侵入、二千八百萬フランの償金を仕拂はねばならぬ等の苦しみを受けました。

それから、又、ルイ十八世が再び呼び戻されて王位につき、今度は其れが九年間繼續しました。此の王政のみが、大革命以來、暴力によつて倒されなかつた唯一のものであります。けれども、一八二四年ルイ王の死と共に其の王國も亦止まればなりませんでした。

其處で、アントワーの伯爵チャーレス十世が立つたのですが此の人は最初から不人望で、遂ひに一八三〇年、オーレアンス黨の蜂起によつて、又々、沒落せればなりませんでした。

オーレアンス黨は遂ひに目的を達しました。其の目的のために、それより先き四十一年間佛蘭西は革命の恐怖の火中に投げ込まれて居たのでした。佛蘭西はオーレアンス王家のものとなり、ルイ・フイリップが確實に王位につきました。けれども、それより以前に革命國會の議席について居た時のフイリップと王位についた後のフイリップとはまるで人が違つたようになりまし

た。從つて、王朝を代へることが齎すであらうと考へられて居た國民の自由は、革命によつて獲得出來るであらうと考へられて居た自由と同じように、單なる[illegible]であつたことが明白になりました。そして十八年間の不安狀態が續けた後にルイ・フィリップも亦、一旦占領した其の王位から追はれてしまいました。

これを一八四八年の第三革命と云ひますが、此の時に、又、パリスの勞働者は社會黨に指導されて烈しい反逆を計り血の雨を降らせました。恐しい破壞を致へて爲した後に第二の共和國は設定されました。で、此の間の消息を其れを目擊して居た佛蘭西人なるフランソワ・サン・ムールに云はしむるならば、

『第二の共和國も一時的のものであつた。佛蘭西は亂暴極まるクーデーターに遊び、革命の慘劇に厭き果てゝ、秩序と休養を渴望しルイ・ナポレオンの名に屈服してしまつた。そして、第二の帝國は設立されたが、直ちに又、粉碎されてしまつた。恐しい戰爭は止度もなく續いた。ナポレオン軍は敗北して、ルイ ナポレオンは捕虜となり、三度目の共和國が布告された。けれども、その共和國は國民の要求ではなかつた。そしてそれからと云ふものは無政府主義、壓制主義及び其の他のあらゆる國家的罪惡が行れた。

『しかも、其れが皆自由の名の下に爲されたのである多くの野心家は國家の不幸を利用して權力を我が手に握らうとして恥づべき行爲を致へてした。實に、巴里は修羅の巷と化してしまつた。一言で云ふならば最も憎むべき人間の本能の發露が謳歌され權勢を得た。最も憎むべき罪惡が公然と行はれても、人は其れをどうすることも出來なかつた。革命と云ふものは常に武裝してゐて、正しい者を踏みにじる。それが佛蘭西の歷史である』と。

一體、革命と云ふものは以上述べて來たような狀態を現出するものであります。そして、これは、どうしても理知の作用ではなく、感情から來て居るものですしかも俗惡な本能の作用であります。つまり、人間の本能を理知をもつて調節しないで一途に純理を信じたからであります。佛蘭西の革命は實に動物的な人間の優勝劣敗でありました。そして、自然陶汰によつて衛

せられべきものでありました。他の言葉を以て云へば俗悪な保守主義でありました、何故なら、自己を主張するに急であつて一切他を容れようとしない。從つて進歩がない。もし、其處に進歩があつたとすれば、其れは生物學上の自然の進歩であつたのです。

これに反して、英國は十七世紀の革命に於てチャーレス一世が處刑され、それから後にジェームス二世が追放されて以來、先づ、革命と云ふものはありませんでした。英國民は常に理知に訴へて、ことを處し一歩々々と人權を確立し、國民の生活を不安狀態から安定の狀態に導いて來ました。そして、さうするに付てはいろ／＼の意見の衝突を調節する必要があつたのです

佛蘭西人のように感情に生きることの代りに意志に生きる英國人は常に賢い妥協によつて國民を光明ある生活へと導いて來ました。其の苦心は非常なものであつたに相違ありませんが、併し成功しました。

そして、保守主義と云ふ惡名を負はされたのでありますが、併し、革命主義と云ふ美名の下にあらゆる慘虐を包含し、そして、進歩の實を擧げ得なかつた佛蘭西人よりも、名は保守主義でも事實上著しい進歩の跡を示し、ロイド・ジョージ氏の失業保險の設定に至る迄あらゆる意見の衝突や利益の衝突を調和して、國民を保護して來た英國の保守主義は實に進歩主義であると云はればなりません。こう云ふ事實から私は世間で保守主義と云つてゐるものはいつの間にか、進歩主義に其の內容を代へ、却つて、進歩主義乃至は革命主義と云はれてゐたものがいつの間にか保守主義則ち退歩主義になつてゐると云ふことを云ひたかつたのです。

此處にまだ一つ殘る問題は『明治維新の革命』と云ふ靑年の言葉ですが、併し、これは革命ではなく、王政復古であつたと私は思つて居ます。

◆お寺まゐり（鐵道省運輸局旅客課）布裝三五判五二八頁鐵道省。例の谷口梨花氏が旅行者の參考に編纂したものであるが京都奈良を中心に近畿附近の主要寺院を遍れく其縁起、結構、風致、地誌等に亘つて得意の雄筆で説明したもの寧ろ美術研究上の權威ある參考書と云ふべく挿畫の豐富と美麗とにも刮目されたい。

教育社會學講話（第二十回）

社會階級の研究

後れてゐる社會

持つて生れた能力を發達させないと云ふことは本人の不幸ばかりでなく、其の人の屬する社會の損失です。

其の能力を發達させるための子供の敎育は先づ家庭と其の家庭の近所から始まり、子供が少し大きくなると學校が其の敎育を補足します。子供が自分の持つて生れた能力を自覺させられるようになるのは家庭からか、近所からか、又は、學校からです。

子供の屬する家庭が非常に優れて善良なものであるならば、近所や學校が善くなくても、彼の貴い衝動は充分に働きます。或ひは、又、非常に優れた聰明な善良な敎師

が一人でもあるならば、其の子供の家庭や近所が惡くても、子供を正しい方向に導くことが出來ます。けれども、子供の屬する地方全體が後れて居て善き敎師もなく、家庭も惡いならば子供の持つて生れた能力は發達の著につく機會を失つてしまいます。もし、又、たま〳〵例外な頭腦の優れた人間が生れても、さう云ふ人間は周圍の因循な空氣に耐へかねて大抵はさう云ふ土地を飛び出してしまいます。そして、時勢に後れた其の土地を置き去りにしてしまいます。現代の交通機關は隨分發達して居るにも拘らず、さう云ふ地方は依然と昔ながらの狀態を續けて居なければなりません。

何處の國にもさう云ふ時代後れの社會が存在して居ますが、さう云ふ社會はいつも藝術家の好材料となつてゐます。そして、其の理由は、一定の標準に進んだ社會の人よりも、さう云ふ社會を構成してゐる人々の人間味の方が本物であるからです。つまり、さう云ふ社會の人々の方が虛僞が少ないからです。そして、藝術家はさう云ふ社會へ行くと時代の標準となつてゐる人間とは違つたタイプの人間を見出します。藝術

家は其れをうまく利用して興味あるものを社會に提供します。たとへば、クーパーと云ふ小說家は昔の新開地の人々を理想化してゐますし、アーヴイングは紐育の和蘭人を巧妙に描き出してゐます。

けれども、藝術家が元始的の社會を描き出すと云つても其れは寫眞のように正確ではありません。つまり、藝術家は自分の材料として都合のよいものばかりを拾ひ上げて、他の一切を顧みません。そして、此處に難しいことは、もし、描き出されたものが滑稽であるならば、描かれた人々は、藝術家と云ふものは自分等を馬鹿にし材料に使つて笑ひの種を世間に提出すると云つて立腹しますし、もし、又、それが高尚で立派であるならば、それは全く事實に合つてゐないと云ふ非難を他から受けます。

さう云ふ社會を科學的に解剖してすら、其の標本として使用された人は立腹します。ですから、敎師にしろ社會奉仕者にしろ、さう云ふ社會へ這入つて仕事をしようとするならば、彼等のさう云ふ心理を知つて置く必要があります。有効に仕事をしようと

思へば、先づ、彼等との間に同情的な關係を結んで置かなければなりません。彼等が自分等が利用されると考へたり、又は、自分等に對して態度が尊大だなどと考へたりするようでは折角の計畫も大抵は失敗に終つてしまいます。

人間性や社會的過程を研究するには都會が最も有効だと云はれて居るのは、都會に於ては人間の性質の善い處も惡い處も過度に現れて居るからです。それが、都會生活の特長とも云ふべきものであります。貧民階級のうちに多い邪癖のある人間や常習的罪人と普通人との接觸は其の惡性を傳染させ、傳播させるものだとして、今日の社會はさう云ふ人物を普通人と遮斷して置く必要を認めてゐます。

後れてゐる社會のうちに移民者の社會が數へられてゐます。けれども、移民者の社會が後れてゐる理由は、前述の土着の貧民の社會が後れてゐるのとは異つてゐます。移民者は自分の本國に於て養はれた考へをもつて新しい國へ來ます。けれども、本國から持つて來た考へを持つて生活を續けて行くことは出來ません。と云つて、新しい

國の生活に直ぐ這入ることは出來ません。なぜなら、彼等と其の國の人々との交通は不完全であるし、彼等が本國に於て獲得した熟練や教育は差し當り役に立たないので、產業に從事すると云つても、唯、不熟練勞働者として雇はれるのみです。

世界中で、移民程氣の毒な狀態にあるものはありません。昨日迄は本國に於て立派な先祖の背景を持ち、近親や近所の人々に取り卷かれて尊敬に價ひする一國民として立派に生活して居ても、外國に移住した其の瞬間から一個の無價値な浮浪者です。もの云ふことも出來ず、自分で自分を仕末することも出來ず、實に、おかしい程意氣地のない悲劇的の人間になります。鬼の裁判を受けてゐるたましひ、或ひは櫓を失つた小舟と云ふのが移民者の最初の狀態です。米國人は此の移民と云ふものを徹底的に研究しようとしてゐますが、併し、移民の移動は甚だ烈しいものであるために移民と云ふものゝ正しい觀念はなか〳〵摑めないと云はれてゐます。

とにかく、一九一五年、フレドリック●ホーと云ふ紐育の移民係りの役人は米國に

於ける移民の米國化を企てました。そして米化日として米國獨立祭の日七月四日を選み、其の日を祝はせるように勸めました。それから、又、夜學校に於て、移民者に英語、歷史、地理、及び、司法制度などを敎へるように奬勵しました。けれども、大多數の移民者は每日の實際生活から要點を學ばうとして夜學校を充分に利用しないと云はれてゐます。殊に、婦人の方が男子よりも一層米國化が難しい。夜學校を利用するものも男子よりは一層少ないので、其の局に當る人は苦心して居ると云ふことです。其の局に當る人は男子よりも婦人の方が先きに米國化することを望んで居ます。なぜなら、婦人の米國化はやがて彼女達の子供の米國化を意味しますから。

いづれにしろ、後れた社會を一定の標準に迄引き上げるに付ては、學校だけの力では不充分です。なぜなら、學校は一般的ではなく、部分的であつて、後れた社會は矢張り後れた學校を造つてしまいますから。ですから、米國では、カーネーギー慈善會が後れてゐる大學を、標準の處迄引き上げることに努力してゐますし、又、敎育局で

も、南部の方の後れて居る中學を標準の程度に迄引き上げることに苦心してゐます。
とにかく、後れた社會を一般社會の標準に迄引き上げるには、其の後れた社會のうちの最も優れてゐる人物を標本として其の社會全體を敎化して行くのが最も有効だと云はれてゐます。

編輯の後

本誌も號を重ねること三十六、いよ／＼滿三年になりました。世間の婦人雜誌が金の力を揮ひ、大勢の男達が若い婦人達の心を捕へることに頭をしぼつて、外面的に華々しく、所謂讀者本位に、所謂文藝によつて娯樂本位に造り出され、廣告の催眠術を行ひ、讀書界を風靡してゐる時に、本誌のやうな内容のジミな、其の上に廣告の催眠術を使ふことも出來ず、又、使はうともしない小雜誌が果して存在して行けるかどうかと云ふことが實は危ぶまれたので御座いました。

けれども、皆樣の御後援によつて、今ではさう云ふ危惧が無くなつたことを皆樣に喜んで頂きたいと思ひます。なか／＼樂な仕事ではありません。とりわけ經濟的に。けれども、前にも云つたやうに世間に數ある婦人雜誌とは全く傾向を異にし、獨立獨歩で所信をのみ發表する機關としてその使命に忠實であり得ることを聊か誇りとして居ります。

從來は家庭を無視する婦人論が大なる誤謬に陷つて居ることを指摘して今日に至りましたが、此の頃は、その誤謬に大方が心付いて來たやうで御座います。

で、今後は折りのある度毎に家庭の心理的解剖を試みて見ようと考へて居ります。

どうぞ、御繼續御愛讀の上、御吹聽御後援の程を御願ひ申上げます。

本誌定價表

一册	金二十五錢　送料五厘
六册	前金　金壹圓四十錢（送料共）
十二册	前金　金貳圓七十錢（送料共）

■誌代及郵税は前金の事■御送金の際は振替貯金東京五三六八八番に御拂込みのこと■郵劵代用は五厘切手にて一割増■廣告は御照會次第御相談いたします

大正十二年一月廿三日印刷納本
大正十二年二月一日發行

東京四谷區南伊賀町四一
編輯兼發行人　山田嘉吉

東京神田區仲猿樂町十七
印刷人　大杉直次郎

東京四谷區南伊賀町四一
發行所　婦人と新社會社
振替東京五三六八八

婦人問題研究資料

婦人と新社會

合本

第一巻 二圓五十錢
第二巻 三圓
第三巻 三圓

總クロース
金字入美本
送料各十五錢

主要目次

■社會と婦人■文化と文明■家庭婦人と政治■家庭と家屋と文明と■婦人の解放とは■婦人運動の發達と其の傾向■性的教育■男子の婦人論■結婚に對する現代人の態度■婦人の經濟的地位と實業■婦人と社會奉仕■女權と子供■女性の直感■本能の跋扈から本能の征服へ■米國婦人の生活と婦人參政權■青年男女の交際機關■道德と藝術■新マルサス主義を否定す■男性文明の末路■產兒制限の倫理的批判■小學教員と母性■母性の革命天才、遺傳、環境に附ての考察■スペンサーの婦人觀■再婚に付いて■男女關係と母子關係■健全なる人生觀が現代政治の不安を一掃する■『男らしさ』の定義を變更すべき時■再び家庭の危機に附ひて■集合的育兒法と子供の幸福■不滿と社會主義■オリーブ・シュライネルの死■婦人の心理的創造力の解放■女子高等教育と出產率■革命と人間性■何が流行の浪を造るか■男子の不貞操に限て■新社會の教育方針■社會制裁機關としての家庭■生命の新價値■新時代の戀愛と結婚■時代精神を體得した婦人■女權主義者と產業王との對話■新時代が要求する團體生活■基督教が人心を納め得る一つの秘訣■ルソーと現代の思想家■多數制が眞の民主々義か■科學的態度の缺乏■交換價値と使用價値■婦人問題の社會學的基礎■婦人參政權の贊否■愛の悩みを癒すエレンケイ■適者生存の人道化が我が皇室の萬世一系■人類の希望と婦人■女性の特質と女子教育■太平洋會議の側面觀■新時代の夫の資格■カルマルクスと彼の母■家族制度と個人主義■理想の夫婦■機械と人生■教育と社會良心■能率の限度■軍備縮少と母性保護■婦人から政治家への要求■家庭奴隷から家庭の女王へ■社會生活と責任■最近婦人論の傾向■新聞と責任■家庭の進化■家庭 愛國主義・世界平和■知的婦人の職業■現代不安狀態の原因に就て■人間性と社會生活■人間の生活と動物の生活■逆な不具者と其の婦正■物價調節の鍵■新時代と婦人の位置■婦人思想界の浮標■早婚の弊に關する一考察■其の他數百篇

東京市下谷區
谷町南四
賀四伊一

婦人と新社會社

振替東五三三六


雛人形陳列會
二月二日より西館の奥にて開催…
三越の雛人形は例年新機軸を出しますので非常に評判がよいのでありますが、本年も當店獨特の雛を初めとし、その他變雛及び附屬品一式を澤山に陳列致します
◆袷見ごろも陳列（二月二日より）
◆現代高僧墨跡展覧會（二月四日より）
◆石川欽一郎氏滯歐洋畫展覧會（同）
◆綿帶新製陳列（二月十一日より）
◆帶側陳列（同）
◆湖社中繪畫展覧會（二月十三日より）
◆漆藝會作品展覧會（二月廿一日より）
◆澤山五郎氏滯歐水繪展覧會（同）
◆又玄會餘技作品會（二月廿三日より）
三越の二月の休日……は次の如くして休業、定休日……十三、廿六日
三越マーケット……連日盛況續き
東京
越
三越呉服店